

令和2年度第1回香川県教育センター運営協議会 議事録

【日 時】 令和2年7月28日（木）14：00～15：30

【場 所】 香川県教育センター 4階第2中研修室

【出席者】 委員9名（欠席2名）、教育センター所長外4名

※傍聴人 無し

【議事概要】 令和2年度事業について

【主な質疑応答】

○組織・予算について

委 員	前年度にもお知らせしてもらっていますが、4つの事業の前年度比の予算を教えてください。
事務局	各事業とも概ねシーリングがあり、調査研究事業は、約10万円の減、教職員研修事業は約55万円の減、教育相談事業は7万円余の減、カリキュラムセンターの充実事業は約2000万近い増額となっております。トータルとしてこの予算をのぞけば、昨年度並みあるいは若干の減という事になります。
委 員	センターの役割から言うと全部減の予算はさびしいですね。
事務局	最小の費用で最大の効果という使命がありますので、定められた予算の中で、効果的、効率的に事業を執行していきたいと思っております。よろしく申し上げます。
委 員	チーム香川ですね。よろしく申し上げます。

○調査研究事業について

委 員	個別最適化された深い学びに関する研究の中で、香川県は一人一人の学習状況の中で、リアルタイムで把握するというご説明でしたが、具体的にもう少しご説明いただけますか。
事務局	開発途上ではありますが「授業支援システム」に教師が授業の中で到達したい目標に向けて、欠くことのできない大切な発問の答えやそれに関わるキーワード等を、授業前にシステムに入力します。入力するために、授業のことをいろいろと考えることが、綿密な授業準備となり、授業改善につながると考えています。そして、授業中の発問に対する答えやキーワードに、児童生徒がいかに近づけたかを青や赤などの色付きのライトによりリアルタイムで示し、児童生徒の理解度や思考過程を見える化しようとする仕組みなど、瞬時に授業担当者が児童生徒の学習状況を把握できるシステムを目指しています。
委 員	設定されたキーワードが、タブレットPCに、書かれているかないかを、先端技術が見極めていくわけですね。
事務局	その通りです。教師が授業前に、どのような質問をして、児童生徒がどのように答えるか。そこをしっかりと考えて授業に臨むことが、教師の授業改善につながり、また、それを学校全体で考えることが指導力の継承にも繋がると考えています。
委 員	1点目ですが、プログラミング教育についてです。小学校では今年度から正式に始

	<p>まりましたが、本校でも昨年9月に全校一斉授業参観をしました。それにあたり、教育センターの指導主事様にいろいろな資料をいただき、研修・研究に役立て、臨むことができました。まずはお礼を申し上げます。ありがとうございました。校長会の方でも急遽プログラミングのグッズを使って、研修に来ていただきました。我々にも分かるように具体的に、身近に感じられるように教えていただき、うれしく感じています。今後の私たちの指導に活かしていきたいと思っています。</p> <p>2点目です。オンライン授業について、小学校は中学校と比べて、必要性を現場としてはあまり感じていないところがあります。新聞でもいろいろ報道されていますが、各地域が競争のようになっている現状に危惧しています。保護者はうちの地域は遅れていると、悪いイメージを持つこともあるようです。このオンライン授業にしても、中学校や高等学校に比べ、小学校ではそれほどの必要性がないという意見もあり、地域格差が行政格差にもなっている現状があります。</p> <p>そこで、教育センターに頼るところがあるのですが、教育センターが調査研究で協力校を何校か選定されていますが、その選定方法をどのようにしているのか。調査研究の協力校の選定について、見通しとか今後のビジョンのようなものをお聞かせください。</p>
事務局	<p>小学校と中学校の協力校は、昨年度の研究開始前に、公募をいたしました。研究の内容を県下一斉に紙面にて紹介し、賛同・協力いただけるところに申請してもらい、そこから地域バランスや研究内容の希望等で、小学校5校、中学校5校を選定しました。</p> <p>本年度の協力校に関しては、現在検討中であります。しかし、教育センターとしては、ICT活用に対して、いつでも支援できる態勢を整えておりますので、ご連絡いただき、研修等の支援をさせていただけたらと考えています。</p>
委員	ありがとうございます。よろしくお願いします。
会長	他にご質問等ございませんでしょうか。
委員	<p>今、コロナの第2波について考えないといけない時期で、ポストコロナという考え方から、ICT教育は、ある程度残っていくと思う一方で、生徒同士の意見のぶつかり合い等、教育現場では欠かせない、学校の本質的なものがあると思うのです。ICTを活用してやっていく内容、対面による授業でしっかりとやっていく内容、それらのすみ分けが、これからは大事になってくるのではないかと考えています。</p> <p>臨時休業があるなしにかかわらず、動画配信をやっていく内容もあれば、対面授業でやっていく内容もある。今後の教育のあり方の中で、個別最適化された深い学びに関する研究もそうですが、様々なバランスを考え、活用方法の多様化を図ることが大事だと思います。本校も改革に向けて研究し始めているのですが、何かに特化したような研究よりも、むしろバランスを重視した研究を考えていかなければならないと思っています。</p>
事務局	ありがとうございます。
会長	他にご意見等、ございますか。

委員	<p>6月18日、コロナの関係で香川大学がオンライン授業から対面授業に変わった日に私の授業が入っていました。オンライン授業は今まで一度もしたことがなかったのですが、どうなるのかと思っていたら、対面で受講生150人、オンラインで150人という、要するに蜜を避けるために教室に集めないという方法をやりました。私はしゃべりながら画面を見なければならず大変でしたが、いろいろな発見がありました。一番感じたのは、学生達は、普段対面だと質問がそれほどないのですが、オンラインになるとメールで次々と質問がくるのです。質疑は1、2問くらいで終わると思っていたら、結局質疑で20分くらいメールに対して答えを返すという形になりました。</p> <p>小学校・中学校でオンラインを活用すると、授業の形が変わるのではないかと感じました。オンラインは、結構質問しやすいみたいです。オンラインの方が今の世代の子ども達は質問しやすく、どんどん話題も広がっていきます。</p> <p>オンライン授業はおそらくコロナが終わっても、残っていくものではないかと思えます。私は宇多津町のまちづくりの委員をしていて、宇多津町はこれから5年後の町をどうするかという、まちづくりの戦略を計画しています。しかし、過去の5年間を検証して次の5年間をどうするかという各分野にわたっての計画を創っていると、「安心安全」という部門の感染症から守る「学校の安全」の中に、オンラインは絶対必要だと言う委員の方が多くて、学校教育の中で一番つきやすい予算になると思います。施策の中では結構アピールしやすい施策になってくるという印象をもっています。</p> <p>教育センターの方でも、オンライン授業のあり方をもっと掘り下げて、研究されたいとの印象をもちました。</p>
事務局	<p>オンライン授業は、不登校対策にも効果があると、新聞紙上等でも言われていますが、実際、実証協力校の中でもそのような状況がみられました。ほとんど学校に来られなかった生徒が、授業に関わるようになったという報告もありました。</p>

○教職員研修事業について

委員	<p>教育センターの研修は、今年度ほとんどが中止となり非常に残念です。私も個人的には新任校長研修を受講する予定でしたが研修の機会がなく、困った時期がありました。こういった状況の中ですが、本校の教員も自己研修に前向きに取り組んでいると思います。本校は特別支援学校ですが県内の70学級の担当者への支援、訪問、巡回指導それから独自の研修も行っております。この辺りもすべて中止になり、今後のコロナの様子によっては再開を予定しているという状況も全く同じだと思っています。次に質問です。2点あります。まず1点目です。個別最適化された深い学びに関する研究において、これは実際の授業をする先生方の力量が大切になると思います。特に思考の状況を見るにあたって、それぞれの教材に応じた発問、キーワードをどのように設定するのか、それに対してどのような効果を示すのか、どのようなプロセスで思考を絞り込む発問をするのかなど、ICT研修よりも教員のこ</p>
----	--

	<p>うした力量を高める研修が大事ななと思っています。現在、実証研究を行っている事を踏まえて、今後、こうした教員の力量を高める研修の予定があるのかを教えてください。2点目は教職員対象のオンライン研修についてです。現在のところ、教材をダウンロードしたり、視聴したりという形だと思うのですが、今後、授業のオンライン化が進む中で、当然リアルタイムの双方性が求められていくと思います。実際に現在の高等学校でもリアルタイム双方向の授業が行われているところがあります。児童生徒の ICT を使った授業でそうしたものが求められるのであれば、当然、教職員対象の研修もそうなると思います。しかし、実際にやろうと思っても学校内の Wifi 環境が非常に悪いため、子ども達が一斉に検索を始めると、教職員のパソコンが止まってしまうことなど実際にできるのかなという不安もあります。そのあたり教育センターとしては今後、双方向の教職員研修というのでも検討されているのかどうかというところをお聞かせいただけたらと思います。</p>
事務局	<p>1点目ですが、教員の資質能力向上の研修については、新学習指導要領への移行に伴い、例えば、学習評価から授業改善にどう繋げるか、生徒の評価をするためにどのような発問をしたらよいかなどの視点で教科指導や学習指導の研修内容の見直しなどを行っています。教師の力量として何が求められているのかということ、研究課と研修課で連携をとりながら、研究課の研究結果を受けて研修課で研究成果を活かした研修プログラムを検討していかなければいけないと思っています。研修内容の見直しは毎年行っていますが、不十分なところもあると思いますので、研究課の研究成果もチェックしながら、次年度以降もよりよい研修になるようつとめて参ります。2点目についてですが、オンラインでの双方向の研修を現在検討しているところであり、現場のネット環境等について、今後、関係各課とも連携しながら整備を進めていく必要があります。センターでも今年度、大学と連携して実証実験をしています。現場のネット環境もそうですが、センターのネット環境の整備も検討していく必要があります。ただ一つ言えるのは、受講人数が多い研修では難しいと考えております。もし、来年度から実施するのであれば、受講者数が少ない職務研修や専門研修ではないかと考えています。オンデマンド型の研修については、移動時間や旅費の削減等の観点から実施する意味はあると思います。動画教材等を配信して、その内容について課題レポートを課すことで、集合研修を削減すれば、働き方改革にも繋がると考えています。我々研修を運営する側は、集合研修にも大きな意味を見出しています。グループ協議等、集めることの良さも忘れてはいけません。研修方法のバランス、さび分けをしながら、来年度今までと違う形の受講方法の研修も実現していかなければいけないと思っています。</p>
事務局	<p>教育センターには ICT ルームがあり、来年レンタルリースが切れます。現在デスクトップ型ですが、それをすべてモバイル型に変えて、できる限り研究・研修の両面で活用したいと考えています。</p>
委員	<p>ありがとうございました。1点目については連携があるという事で仲良くやっていたらと、2点目は、一番最適なものを探っていくという授業内容の研修会と</p>

	<p>いうのは必要だと思のですが、もう一つの例として、まだオンラインを受けたことが無い教職員に経験させるというのが広い意味での研修となりますので、そうした面から検討していただけたらと思います。よろしくお願いします。</p>
事務局	<p>先般の6月議会で学校のICT環境整備に関する質疑応答がありました。次第に改善されるのではないかと思います。それから先生方を経験させるということについては、当センターにおいてはまず、指導主事を対象に受ける側でなくてやる側を経験してもらうという研修を計画していたのですが、すぐには難しいという事で研修の中に段階的に取り入れていきたいと考えています。</p>

○教育相談事業について

会 長	<p>コロナ禍の影響によって、教育相談に何がしかの変化がみられたり、それに基づく教育相談等が行われているかどうかということをお伺いしたいと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>学校が長く休みになったことで、減少になった項目もあるのですが、一方で「その他」が増えています。長期の休業というこれまでに経験のない状況があって、さまざまな心配事が生じていると感じています。</p>
会 長	<p>ありがとうございました。相談事業についてはよろしいでしょうか。</p>

○カリキュラムセンター事業について

委 員	<p>6ページの派遣の中に幼児教育スーパーバイザーのことが入っております。スーパーバイザーにつきましては、保育所、こども園、幼稚園の方に赴いていただき、いろいろと教をいただいております、感謝申し上げます。</p> <p>所管はそれぞれ異なりますが、幼児教育の質を上げていくには、この時期は大変重要であり、教育センターは、全てのところに関わっていただき、これはとても大きな意味があると考えております。今後もよろしくお願いします。</p>
-----	---

○その他について

委員	<p>予算について、コロナの件ができませんでした、国の方でもそうですが、研修や研究、教育相談すべての面におけるいろんな形での変化を求められている一方で、シーリングがかかっているということをお伺いしました。予算をとるというのはもちろん大事なことでそれに向けての必要なアイデア、こういうものを取り組んでいくんだ、これがこういうふうに繋がっていくんだと、教員の働き方改革もあるでしょうし、いろんな面における工夫とかアイデアを出していかないと予算は削られるという世の中の仕組みだと思うのですが、そういったことについてアイデアを出していきながら、今日もいろんな意味において私も非常に勉強になりました。そういった形で引き続き充実を図っていただきたが、予算をとることがすべてではないと私は思うのですが、それに向けての工夫や改変、研修の在り方というところを引き続きお願いできたらと思います。以上です。</p>
----	--

委員	研究発表会のことですが、今年度は来年の2月19日の予定とありましたが、もし、予定通り実施できなくても、講演や発表内容を、現場の先生方にお知らせできる方法を、センターならではの方法で、ぜひやっていただきたいと思います。特に東京大学の松原先生の講演などは、センターに来なければ聞けないのではなく、方法によっては全部の教員が聞ける機会になるのではないかと思いますので、ぜひ工夫して、内容が伝わったらと思います。よろしくお願いします。
----	---